



1e2019-006

2019 会計年度

一般財団法人ワンアース
事業報告書

2019 年 9 月 30 日

一般財団法人ワンアース



1e2019-006

はじめに

一般財団法人ワンアースは、宇宙的視点から、この星の、いのちの美しさを体感し、ひとつの星で共生するという新しい価値観に基づいた文化交流で、世界を一つに繋いでゆく、という目的を掲げ、平成 27 年 6 月 5 日に創立された。

本書は、当財団の 2019 年度(2018.10.1-2019.9.30)の事業報告である。
なお、当財団の事業年度は 10 月 1 日に始まり 9 月 30 日に終わる。

2019 年 9 月
代表理事
長谷川洋一



1e2019-006

1. 当財団設立の目的

宇宙的視点から、この星の、いのちの美しさを体感し、ひとつの星で共生するという新しい価値観に基づいた文化交流で、世界を一つに繋いでゆく

宇宙飛行士が、宇宙から生々しい言葉と映像を伝える時代になり、この星のありのままの姿が認知されるようになった。その結果、かけがえのない母星で共に生きる『地球市民』という新たな価値観が、国境を越えて醸成されつつある。

一般財団法人ワンアース®(以下、ワンアースという)は、地球市民、とりわけ未来を担う青少年らとともに、宇宙的視点から、この星の、いのちの美しさを学ぶ。

そして、国境を越えた地球市民活動を展開し、各地域の風土や文化の多様性を、相互に敬意を持って受け入れ、宇宙文化とも言える新たな共通の価値観を紡ぎ出す。

これらの活動により、この星に生きる誇りと喜びを共有し、世界を一つに繋いでゆくことを究極の目標とする。

2. 重点分野

当財団は、以下の分野を重視して、活動をスタートした。

1) きぼうの桜事業

宇宙を旅した「きぼうの桜」群を筆頭に、「ソラユリ(宇宙を旅したササユリ)」「宇宙すみれ春野・希望(宇宙を旅したコスミレ)」を、東日本大震災、阪神淡路大震災、日航機墜落事故、原爆等の被災地に贈呈し、復興と市民交流を支援するとともに、大災害の記憶を人類共有の教訓として継承していく。

2) 宇宙文化の創造事業

国内外からの地球市民の参加を得て、国際宇宙ステーション等を活用した宇宙ミッションを実施し、宇宙的視野からみた地球の姿および宇宙飛行士からのメッセージなどを世界で共有し、宇宙文化を創造していく。



1e2019-006

3. 機関設計

評議員3名 理事4名 監事1名 ☆常勤1名

評議員 赤木一朗(オリーブアカデミー代表)

野澤汎雄(プロデューサー)

村田さち子(詩人)

理事 ☆長谷川洋一(代表理事)

踊場敏子(多摩さくらびと)

工藤園子(元日本さくらの女王)

三船文彰(音楽プロデューサー)

監事 内田斉(実業家)

名誉顧問 セルゲイ・アウデエフ宇宙飛行士(ロシア連邦英雄)

リロイ・チャオ宇宙飛行士(第10代国際宇宙ステーション船長)

山崎直子宇宙飛行士 ほか、国内外の有識者、宇宙飛行士 等

顧問 日本各地の桜守、芸術家、文化プロデューサー 等

【主たる事業所】 〒301-0003 茨城県龍ヶ崎市平台 4-20-6

【ホームページ】 <http://www.the-one-earth.org/jp/>

【電子メール】 info@the-one-earth.org



4. 2019 年度事業報告

2019 年度(2018.10.1-2019.9.30)には、以下の事業を行った。

当初事業計画(1e2019-001)に対比して進捗報告を行う。

当初事業計画骨子(下線は重点項目) <公開資料 1e2019-001 より>	
<p>2015 年に一般財団法人として設立したワンアースは、定款にて『非営利が徹底された法人』として活動の実績を上げつつ、公益財団化を見据えた会計システム強化を行う。</p> <p>きぼうの桜計画は、当財団の存在意義に関わる最重要事業として推進し、2019 年度中には東北三県のすべての沿岸市町村にて計画を公式化し、その 5 箇所程度においては、2019 年春期に植樹祭を行う。</p> <p>2019 年 7 月には、きぼうの桜事業に参加する各地域の水平的なつながりの礎を築くための会合「第 4 回 きぼうの桜サミット」を岩手県洋野町で開催する。</p> <p>きぼうの桜をとりまく市民文化の醸成のため、物語および合唱曲を広く周知する。</p> <p>また、全国的にさらに認知してもらうためにも、公的補助金等を積極的に獲得し、メディア露出含めた広報努力を行う。</p> <p>さらに、2020 年頃までの成果を目指した宇宙ミッションを検討し、外部有識者・協力者らの意見も取り入れつつ、魅力的なプロジェクト計画を策定し、これに着手する。</p>	

重点項目達成状況概略		◎十分達成、○ほぼ達成、△遅れている、×問題有り
①	公益財団化を見据えた会計システム強化	○公益法人会計を専門とする良公税理士事務所と契約、 公益財団同等の会計方式を導入
②	きぼうの桜東北全公式化	△遅れている(意志決定したのは 28/40 市町村) が、宇宙フライトの推進と同期しながら 2020 年度はさらに加速することとする。
③	実際の植樹	○今年度は飯舘村、南相馬市(大小2箇所)、名取市の被災地のほか、甲府市、北杜市、川上村、南あわじ市、丹波市、埼玉県吉川市、山形県米沢市などに植樹し、新聞 TV 含め、大きな反響を呼んだ
④	きぼうの桜サミット	◎洋野町で 7 月 26~28 日、 13 自治体 500 名参加 、中高生も多数参加、大きな成果を挙げた



1e2019-006

⑤	合唱曲の普及	○南相馬市(大小2回)、米沢市での植樹祭にて、小学生たちによる合唱を行った △多くの全国レベル団体(学校含む)への営業活動を行った
⑥	補助金の獲得	○洋野町から サミット実施委託 4,585 千円 ○復興庁「 心の復興 」3,390 千円 ○その他民間からも受注多数(別途報告)
⑦	宇宙ミッション計画	○ 東北復興宇宙ミッション 計画を立ち上げ、2021年3月11日目途で宇宙から世界へメッセージを発信することとした。被災三県の自治体の参画促進と財源の具体化が課題である。
⑧	その他	○ワンアースを支援する(株) 宙だよりスタジオ との連携事業を企画中



1e2019-006

5. 財務状況

第五期の決算報告書は別途作成しておりますが、概略は以下の通り良好です。

□ 損益

- 経常収益 11,932 千円
- 経常費用 10,124 千円
- 当期経常増減額 1,808 千円(A)・・・一般企業における経常利益に相当
- 一般正味財産期首残 1,818 千円(B)

□ 一般正味財産期末残高 3,627 千円(A) + (B)

- 財団法人の継続に 3,000 千円以上が必須要件

【特記事項】

今期の増収の内訳等(御寄付以外)

- きぼうの桜サミットの企画運營業務を一括受託(洋野町 4,585 千円)
- 民間受注(ふくしまスカイパーク様)企画業務受託(800 千円)
- 関連会社様から宇宙関連事業コンサル業務受注(宙だよりスタジオ様 500 千円、CME モルゲンランド様 1,000 千円)
- 看板デザインデータ制作を各自治体等から受託(9 件)
- 講演料(甲府、吉川市 各 10 万円)
- 宇宙グミ(BCC 社)からの商標使用料(761 千円)
- 宇宙桜御線香(梅薫堂社)からの商標使用料(57 千円)
- 復興庁から獲得した補助金(3,390 千円)は未収入なので上記に計上していない
- 企業様等からの御寄付(BCC 社、MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ 各 100 千円)



1e2019-006

6. 課題と対策

【財源確保活動の強化と、身の丈に合わせた活動実施】

今期までの活動はなんとか実施してきたが、財団運営に関わる共通経費(オフィス、人件費等)はほぼゼロであり、理想とする事業規模を推進するには財源が足りない。

公的補助金や自治体からの指名委託なども徐々に獲れるようになってきたが、さらに、民間からの受注を増やす努力が必要。

今後の対策は以下の通り

- ① きぼうの桜に関する植樹実績をアピールして国、県、自治体に直接働きかけていく
- ② ワンアース全般のサポートをしてくれる企業を見いだすこと
- ③ 一般向けの会員制度などを検討すること

6. 長中期事業項目(2019-2023年)

一般財団法人ワンアースの社会的使命を果たすため、中長期的には以下の事業に取り組む。

- 1) 宇宙桜等の保護、育成、増殖及び活用
- 2) 東日本大震災、阪神淡路大震災等復興地への支援活動
- 3) 青少年等の夢をはぐくむ宇宙文化創造事業(市民参加型宇宙ミッション含む)
- 4) 宇宙文化交流事業(海外への桜贈呈等含む)
- 5) 地球市民参加型宇宙ミッション(花伝説世界版、地球のかげら など)

これらに関しては、今年度の事業進捗を踏まえつつ、次年度以降の事業計画に反映していくものとする。

【事業報告の附属明細書】

1e-2018-002:「きぼうの桜計画書」